



畳（製造業）

令和3年度採択

# 国産い草と伝統的な畳製造技術を活かした、インテリア向け新製品の開発及び海外販路開拓・ブランディングプロジェクト

**POINT** 天然由来のサステナブルな新素材としてい草と畳の魅力を発信！

## 補助事業者

### 有限会社鏡畳店（資本金1,500万円、従業員2名）

会社概要：現在4代目、創業100余年の老舗畳店として一般住宅の和室・店舗施設・寺社仏閣の伝統的な畳を施工する傍ら、畳の原料であるい草農業との相互的な文化継承、存続、発展、創造を目的とした普及活動に取り組む。

## 課題

生活スタイルの洋風化に伴う需要減少により、畳産業とい草農業は年々衰退の一途を辿る状況下であり、国内外における新たな市場を開拓することが喫緊の課題であった。又、世界的なSDGsの潮流から、日本の伝統的な素材や技術が注目されており、当社製品に対しても実際に欧米から問い合わせがきていたが、これまで十分な対応ができていなかった。

## 取組概要

- ・米国イリノイ大学を拠点としたマーケティング調査・販路開拓・販売ルート構築
- ・各種オンライン商談会への参加、リアル展示会・バーチャル展示会への出展
- ・海外向けプロモーション動画制作、海外向け情報発信基盤の整備
- ・い草・畳表・稲藁を使用した家具、インテリア素材としての新製品試作・開発

## 取組の効果

本事業により、商品ニーズと開拓すべき市場がより明確になり、オンライン展示会出展や商談会参加の中で実際に海外バイヤーから寄せられたコメントからも北欧などの潜在市場が明らかになった。米国イリノイにおける営業拠点計画は2023年秋に向けて着実に動いている。プロモーション動画は、言語の壁を越えた誰が見てもわかる仕上がりで、海外販路開拓において欠かせないPR媒体となった。イタリアの取引先の高級家具メーカーにはい草・畳製品を素材・部材として提供し、継続的な取引が決まっている。本事業期間中に開発した畳家具（ベンチ）の販売実績は1脚32万円で、量産・越境EC販売を検討している。



[米国イリノイ拠点パース] [オンライン商談(スウェーデン)] [製品開発打ち合わせ]

## 支援P 一般社団法人山形県国際経済振興機構

### 支援Pが果たした役割

鏡畳店が製造するインテリア向けい草製品の欧州、米国における販路開拓・拡大に向け、当該機構の県産品輸出コーディネーターによるサポートを実施。主なサポートとしては、事業の進捗状況の把握及び相談対応のほか、商談会やセミナー等の案内、JETROの支援メニューの活用検討、オンライン商談会への同席支援などを行った。

## 事業の実施体制

